

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：野田 勝

事業の概要

事業名	(一) 町道菅生姥ヶ懐線	事業区分	地方道	事業主体	宮城県村田町
起終点	自：宮城県 柴田郡 村田町 大字菅生字下倉 至：宮城県 柴田郡 村田町 大字小泉字北姥ヶ懐	延長	4.4 km		
事業概要	町道菅生姥ヶ懐線は、現在整備中の菅生スマートインターチェンジのアクセス道路として、その安全性や円滑な通行確保を目的とし、当路線の4.4km区間において線形改良等を実施するものである。				
事業の目的、必要性	町道菅生姥ヶ懐線は、急カーブが複数箇所存在し、交通事故が多発している。また、沿線には観光施設が立地し、イベント時には著しい交通混雑が発生し、周辺地域の円滑な交通に支障が生じている。そのため、線形修正や車道拡幅等を行い、交通事故・混雑を軽減し、安全で円滑な通行を確保するものである。				
全体事業費	約8億円	計画交通量	約2,700台/日		
事業概要図					
関係する地方公共団体等の意見	地元住民、地元町議員及び菅生自治振興協議会から菅生SIC完成に併せた事業完成を要望されている。				

学識経験者等の第三者委員会の意見
新規事業化は妥当である。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている。
平成30年度から菅生スマートインターチェンジが事業着手している。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.2	総費用：8.2億円 （事業費：6.5億円 維持管理費：1.7億円）	総便益：10.1億円 （走行時間短縮便益：7.2億円 走行経費減少便益：2.6億円 交通事故減少便益：0.3億円）	基準年：平成30年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= (交通量 - %)	B/C= (交通量 + %)	
		事業費変動	B/C= (事業費変動 + %)	B/C= (事業費変動 - %)	
		事業期間変動	B/C= (事業期間変動+ 年)	B/C= (事業期間変動- 年)	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	観光施設イベント時に交通混雑が発生。別線整備を行うことにより、通過交通を分離し、現道の交通混雑を緩和。	
		事故対策	◎	線形改良による走行安全性向上及び交通事故の軽減。 死傷事故率：270.6件/億台km(現況) ※県平均38.4件/億台km	
		歩行空間	-	注目すべき影響はない。	
	社会全体への影響	住民生活	◎	菅生SICと一体に整備することにより、東北自動車道経由で三次医療施設（仙台市立病院）への輸送時間の短縮に寄与。	
		地域経済	◎	東北自動車道と国際産業交通拠点仙台空港との利便性・アクセス性の向上や輸送時間短縮により、交通ネットワークが強化され、物流・人流の拡大が期待できる。	
		災害	○	第一次緊急輸送道路（東北自動車道）第二次緊急輸送道路（主要地方道仙台村田線・主要地方道岩沼蔵王線）を結ぶ本路線を整備することにより緊急輸送道路の利用強化が図られる。	
環境		-	注目すべき影響はない。		
	地域社会	○	観光施設イベント時の交通混雑緩和により、地域の魅力向上が期待できる。		
事業実施環境	菅生スマートインターチェンジが事業化し、当該路線の事業実施に向けた機運が高まっている。				

採択の理由

事業主体である村田町が実施した評価に基づけば、費用便益比が1.2と、便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。また、交通混雑・事故を軽減し、インターアクセスにおける安全で円滑な通行確保に期待ができる等、当該事業の整備必要性は高いものと判断される。
以上から、本事業は平成31年度の新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

